

御意見一覧

「令和2年春の東京都におけるスギ・ヒノキ花粉飛散状況」（資料1 作成者：佐橋委員）について

| 委員名 | 意見・質問等 | 資料作成者からの回答 |
|-------|--|---|
| 浅香委員 | 花粉飛散量の少なさ、および飛散開始からピークまでの期間の短さに驚きました。 | |
| 井上委員 | 特になし | |
| 大久保委員 | <p>【回答希望】 23区内で予想より少なかった事は神奈川からの花粉が少なかったから※ということですが、実際の神奈川の全体のスギヒノキ花粉飛散数は少なかったのでしょうか。</p> <p>※資料2 P4に記載あり</p> | 神奈川県内の3市（横浜、厚木、小田原）の2019年スギ・ヒノキ花粉飛散総数の平均値に対する2020年の平均飛散総数は、47%に過ぎないので、神奈川県内のスギ・ヒノキ花粉生産量は昨年よりもかなり少なかったと推測されます。 |
| 櫻山委員 | スギ・ヒノキ飛散総数と最大飛散数の間に高い相関がみられたことはたいへん興味深く、佐橋先生が仰られているように、今後飛散予測が計算できた段階で最大飛散数の予測も可能になるのではないかと思います。（7ページ） | |
| 佐橋委員 | 特になし | |
| 弘岡委員 | スギ抗原免疫療法の効果が高いため、花粉症の症状はヒノキ花粉の動向に左右される患者が少なくありません。 先生のスギとヒノキそれぞれの詳細なデータは、外来患者の症状の動向と一致するところが多く、臨床上役立つこと大です。 今後もヒノキ花粉の動向その他についてご教示下さい。ヒノキ抗原免疫療法の実現にも繋がるようお願いしております。 | |
| 弘瀬委員 | 特になし | |
| 星山委員 | 特になし | |
| 堀委員 | 特になし | |
| 村山委員 | 多摩地区の最大飛散日は、2月23日に出た可能性が高いので、毎日のデータで確認できない場合は、推定値とのクレジットをつけた方が良いでしょう。立川の飛散開始日も同様。 今後、委員会で検討してほしい。 | |
| 横山委員 | <p>P1 ヒノキ花粉の初観測日について。 青梅の初観測日が2月12日とありますが、著者もご指摘のように、ヒノキ花粉ではないと思われます。「昨年開花した花粉」というのも考えられないので、「ヒノキ科の他の種類の花粉」だけの説明の方が適切だと思います。 サワラにしても早すぎますので、市内に植栽されているセンペルセコイア、コノテガシワ、メタセコイアなどの可能性が考えられますが、記述するほどのデータはありません。</p> | |

御意見一覧

「令和2年春の花粉予測の検証」(資料2 作成者：村山委員)について

| 委員名 | 意見・質問等 | 資料作成者からの回答 |
|-------|---|--|
| 浅香委員 | 近年の気象状態は不安定で気象による予想の難しさを感じます。 | |
| 井上委員 | 特になし | |
| 大久保委員 | 【回答希望】 平成30年の大飛散の影響が今年まで及んでいると考えてよいでしょうか。 | 平成30年の大飛散の影響は特にヒノキ花粉に強く出ていると考えています。 |
| 櫻山委員 | 村山先生による1月委員会での飛散開始日の予測と実際の飛散開始日とは、1週間程度(青梅、八王子では2週間程度)のずれがあったものの、2月1日の修正値ではかなり誤差が少なくなったようです。 予測の意義はあったと思います。(6ページ) | |
| 佐橋委員 | 飛散数の予測値が実測値を下回った大きな原因を6月上旬～7月上旬の日照時間が平年より少なかったとの事であるが、マスコミでの予測飛散数の基になる気象因子は7月から8月の気温や日照時間が現在でも取り沙汰されていることから、今後他の予測機関(気象関連等)に対し、予測の気象因子の期間について再考を求めることも必要と考える。 | |
| 弘岡委員 | 【回答希望】 今シーズン花粉飛散量が少なかった原因として、6,7月の日照時間の他、3月の風向きを挙げられていますが、佐橋先生は気温の上昇と降雨が交互にくりかえされたため、花粉が都会へ到達しなかったのではとっておられますが、先生のご意見は如何でしょうか。 | 佐橋先生のお話のように2月から3月は平年より雨の日が多く、その影響もあると思います。 |
| 弘瀬委員 | 特になし | |
| 星山委員 | 特になし | |
| 堀委員 | 特になし | |
| 村山委員 | 特になし | |
| 横山委員 | 予測よりも花粉飛散数が少なかった原因として、①気象条件の影響でスギ林での雄花(花粉)形成量が少なかったこと、②雄花が比較的多く、都への影響も大きい神奈川県からの飛散が少なかったこと、が挙げられてます。ご指摘に異論ありません。 敢えて付け加えれば、ヒノキ林の雄花(花粉)生産の落ち込みがスギ以上に大きかったこともあるかと想像します。ヒノキ林の雄花観察法が確立されてないので、記述はできませんが。 | |

御意見一覧

「花粉症患者動向調査」（資料3-1及び資料3-2 作成者：浅香委員）について

| 委員名 | 意見・質問等 | 資料作成者からの回答 |
|-------|---|------------|
| 浅香委員 | 特になし 新型コロナウイルスの感染拡大が患者数に与える影響は大きかったです。 | / |
| 井上委員 | 特になし | |
| 大久保委員 | 今年はコロナの影響も再診数にはあったと考えますが、今後もこの状況はしばらく続くとすると過去データと何が違っていくのか考える必要も出てくると考えました。私見です。 | |
| 櫻山委員 | 特になし | |
| 佐橋委員 | 今春のスギ花粉飛散のピーク時期や終息時期、さらに飛散総数が、初診患者のピーク時期、終息時期や患者数と強く相関することを確認できた点で花粉症の予防、治療に如何に花粉の調査が必要であるか、再認識させられた。 | |
| 弘岡委員 | 特になし | |
| 弘瀬委員 | 特になし | |
| 星山委員 | 特になし | |
| 堀委員 | 特になし | |
| 村山委員 | 特になし | |
| 横山委員 | 資料3-1 P2 (2)③「……再診患者巢の比の……」ミスプリと思います。 | |

御意見一覧

令和2年春スギ・ヒノキ花粉飛散状況のまとめ（資料4：事務局資料）について

| 委員名 | 意見・質問等 | 資料作成者からの回答 | その他 |
|-------|---|---------------------------|--|
| 浅香委員 | 花粉飛散量の少なさ、および飛散開始からピークまでの期間の短さに驚きました。 | | |
| 井上委員 | 図1-2、図1-3、図2で 区部vs多摩部 の色分けをしています。 3つの図で同じ色分けを使い、図1-1の スギvsヒノキ の色分けは別の色にしてください。 | | 修正案では、図1-1、図1-2、図1-3、図2につき、見やすさに配慮し、棒の色を変更いたします。 |
| 大久保委員 | 特になし | | |
| 櫻山委員 | 2ページ「4 花粉症患者動向調査」の最後に「…院内感染防止の観点から(3密防止…短縮目的)4月以降は…」とありますが、「(3密防止…短縮目的)」は記載する必要はないのでは？ | | 修正案では該当部分を削除いたします。 |
| 佐橋委員 | 特になし | | |
| 弘岡委員 | 【回答希望】 2の(2)令和2年1月が予想外の高温となったため、2月10日～13日と予測を修正した。…とした方が良いのではないかと考えます。（図3下部に説明は付記されていますが…） | 修正案に、再予測の実施とその結果を追記いたします。 | |
| 弘瀬委員 | 特になし | | |
| 星山委員 | 特になし | | |
| 堀委員 | 特になし | | |
| 村山委員 | 特になし | | |
| 横山委員 | P2 ウ 「…日照時間が平年より少なかったこと及び…」 日照時間が少なかったためにスギ林での雄花生産量が少なかったという意味の言葉を加えた方が分かりやすい気がします。 | | 修正案では、文言を追加いたします。 |

御意見一覧

立川市及び八王子市における花粉観測地点の移設について（資料5：事務局資料）について

| 委員名 | 意見・質問等 | 資料作成者からの回答 |
|-------|--|------------|
| 浅香委員 | 特になし | |
| 井上委員 | 特になし | |
| 大久保委員 | 特になし | |
| 櫻山委員 | 特になし | |
| 佐橋委員 | 特になし | |
| 弘岡委員 | 特になし | |
| 弘瀬委員 | 特になし | |
| 星山委員 | 特になし | |
| 堀委員 | 特になし | |
| 村山委員 | 特になし | |
| 横山委員 | 観測地点が変われば同じ市内でも測定花粉数も変わるので、望ましいことではないが、移設はやむを得ないと思います。 | |